

家族参加を目指したディベロップメンタルケアの取り組み

～パンフレット使用の効果～

4階北病棟未熟児室 ○池田麻衣子 橋口かほる 葉山綾子 助川幸子

はじめに

前回研究では、DCの現状把握をすべく母親と看護師にアンケート調査を実施した。その結果、80%の母親が「DCの説明がなかった」と回答し看護師においては、DCの実施統一や家族参加が徹底できていなかった。今回は、家族参加をよりスムーズに行なうことを目的に、パンフレットを作成して説明と指導を行なった。その結果、母親のDCに対する認識が高くなり、取り組みの成果を得ることができた。

I 研究目的

パンフレットを用いた介入がDCの家族参加に効果的であることを明らかにする。

II 研究方法

1 研究方法

1) パンフレットを作成し、母親の入室面会3日目から赤ちゃんにとっての刺激とストレス・DCの必要性・取り組みの実際・効果・DCに関するQ&Aなどについて説明と指導を行った。

2) 介入群：母親へのアンケート調査：未熟児室でのDCの取り組み・退院後に行なったDCの内容・DCについての思い（感想・意見）などを、選択回答式と自由記述式により実施した。

III 結果

1 介入前後の母親への質問紙によるアンケート調査の比較

音・光環境について「未熟児室で気になった音があった」は前14.6%から後41.4%に増えていた。

2 介入前のアンケート調査でのDCに対する母親の思い

思いの要素を6カテゴリーに分類した。記述内容から肯定的な思いをDCに対する正のイメージ、疑問視や不安視した思いを負のイメージに分類した。

3 介入後のアンケート調査でのDCに対する母

親の思い

思いの要素を8カテゴリーに分類した。介入前はDCへ関心を示す内容に留まっていたが、介入後はDCを実践していきたいという内容に変化していた。介入前後ともに入院中の心境として、児が未熟児室に入院になった事や、児と離ればなれになることに対する不安の声が聞かれた。

IV 考察

介入後にDCに対する負のイメージがなかったことについて、介入前は、DCについての計画的な説明は行っておらず、未熟児室での取り組みを掲示しているポスターを示しながら説明するのみであった。パンフレットを用いて説明を行ったことで、母親がDCの意味や必要性・取り組みの実際を知ること、肯定的な考えに変化したのではないかと考える。

母親がDCを自宅でも取り組んでいたことについて、介入後にタッチングや器外抱っこなどのケアを早期に促したことで、看護師が行っているDCを母親がそばで見ているだけではなく、授乳やオムツ交換と同じように大切な育児行動の1つとして捉えられたのではないかと考える。そしてこの事が、自宅でも実践できるDCとして退院後の継続した取り組みにつながったものと考えられる。

母親の安心感について、パンフレットによる説明やDCの取り組みは、母親が看護師から赤ちゃんを大切にしてもらっていると感ずることができ、信頼と安心感につながったのではないかと考える。「赤ちゃんのストレスが減ることで母親も育児ストレスが減る」という意見から、DCにおける家族参加は、母親のストレス緩和が期待できる。

V 結論

1 パンフレットの活用は、家族のDCへの意識を高め、実践に効果がある。